

ゴリラは真昼、入浴す。(1993)

GORILLA BATHES AT NOON

メディア 映画

ジャンル ドラマ コメディ

製作国 セルビア/ドイツ

色彩 Color

時間 83分

初公開日 1994/12/23

公開情報 コムストック

【解説】

共産主義がまだバリバリの現役だったころから、その体制内においても、痛烈な内部批判を包含するアーキーな作品を撮り続けたマカヴェイエフだからこそ、この“共産主義の没落”への挽歌はコミカルではあるが、観客の胸に物哀しく響く。壁崩壊後の東ベルリンに一人取り残された旧ソ連兵が、金がなにより物をいう“西側”に戸惑い、守銭奴となりつつも、かつてこの都市に侵攻した軍の一員だった父の面影を追う（49年のプロパガンダ映画「ベルリン陥落」がしきりにコラージュされる）。そのうち、革命まもない頃のレーニン（兵士が恋するミキミキ役のA・マンキックの二役）の苦渋する様も幻視するようになり、パラレルな諷刺が一束にまとまっていくが、途中挿入される東ベルリンの街を睥睨するように立つレーニン像解体の克明なドキュメントがあまりに痛々しく、物語を異化してしまうのだった。

【クレジット】

監督	ドゥシャン・マカヴェイエフ	Dusan Makavejev
製作	アルフレート・ヒュルマー ボヤナ・マリアン ヨアキム・フォン・ファーンクホ	Alfred Hurmer
撮影	アレクサンダル・ペトコヴィッチ ミオドラグ・ミロセヴィッチ	Aleksandar Petkovic
音楽	ブリモア・ジョーンズ	
出演	スヴェトザル・ツヴェトコヴィッチ アニタ・マンキック	Svetozar Cvetkovic